

# 記 入 様 式



## 目 次

1. 様式-1 調査結果一覧表	1
2. 様式-2 調箇所別記録表（落石・崩壊）	2
3. 様式-3 箇所別記録表（岩盤崩壊・地すべり・土石流・盛土・擁壁・その他）	3
4. 様式-5 箇所別記録表（橋梁基礎の洗掘 その1）	4
5. 様式-6 箇所別記録表（橋梁基礎の洗掘 その2）	5
6. 様式-7 安定度調査表（落石・崩壊）	6
7. 様式-8 安定度調査表（岩盤崩壊）	7
8. 様式-9 安定度調査表（地すべり）	8
9. 様式-11 安定度調査表（土石流）	9
10. 様式-12 安定度調査表（盛土）	10
11. 様式-13 安定度調査表（擁壁）	11
12. 様式-14 安定度調査表（橋梁基礎の洗掘）	12
13. 様式-16 被災履歴記録表	13
14. 様式-17 被災履歴記録表（橋梁基礎の洗掘）	14
15. 様式-18 現状記録写真	15
16. 様式-19 点検箇所管理図	16
17. 様式-20 経過観察表Ⅰ	17
18. 様式-21 経過観察表Ⅱ	18
19. 様式-22 調査平面図	19
20. 様式-23 点検表記録その1（道路土工構造物点検）	20
21. 様式-24 点検表記録その2（道路土工構造物点検）	21
22. 様式-25 点検表記録その3（道路土工構造物点検）	22









様式-5 箇所別記録表(橋梁基礎の洗掘 その1)

施設管理番号		路線名		距離標(白)		至		管理機関コード		管理機関名						
事業区分	一般・有料	道路種別	初速・旧道路区分	所在地	河川名(河川管理番)	北緯	東経	上・下・他	橋梁名	橋長	m					
事前通行規制	有(通行・特殊)・無	規制基準等	連続雨量 mm	時間雨量 mm	交通量	平日	台/12h	休日	台/12h	DID区分	該当・非該当	該当・非該当	緊急輸送道路区分	世界測地系・日本測地系		
<p>位置図(指尺1/5,000~1/25,000程度。当該橋梁を中心として、上下流の河運形状が把握できる範囲図を添付し、図面上に点検を行った基礎を示し、特にその周辺の基礎状況やその他の基礎状況を添付すること。)</p> <p>橋梁一般図(断面図には現況地盤線・河川改修計画のある場合には計画断面について)を示し、図面上に点検を行った基礎を示し、特にその周辺の基礎状況やその他の基礎状況を添付すること。)</p> <p>洗掘・変状の状況(スケッチ)</p>																
河川(橋梁)種別	河川	計画河床高	m	配高	1/	点検基礎選定理由		基準点の位置(洗掘状況)		基礎点の高さ(HS)		m	基礎点の高さ(S=HL-HS)		m	
最深い河床	m	河積阻害率	%	最小径間	m	1)現場の状況		7-アゲ(旧河)上面高さ(HL)		m	7-アゲ(旧河)下面高さ(HL)		m	7-アゲ(旧河)下面高さ(HS)		m
桁	下	構造形式		橋台		1)、2)を考慮して橋台( )・橋脚( )を点検										
橋梁種別		構造形式		橋脚												
橋脚		構造形式		橋脚方向幅	m											
<p>特記事項          日 天候(晴・曇・雨)          月          年          H 年度点検結果          調査方法:橋台調査方法          橋脚調査方法          特記事項</p>																
<p>被災履歴          有( )・被災履歴記録参照、2 詳細不明          無( )・無( )          H8年度点検結果          評価点          H18年度点検結果          評価点          総合評価          対策が必要とされる・防災カルテを作成し対応する・特に新たな対応を必要としない          総合評価          対策が必要とされる・防災カルテを作成し対応する・特に新たな対応を必要としない          総合評価          対策が必要とされる・防災カルテを作成し対応する・特に新たな対応を必要としない</p>																
<p>想定される災害規模          想定対策          工種          その他</p>																
<p>その他</p>																



点検者	
所属機関	

様式-7 安定度調査表(落石・崩壊)

施設管理番号	
部分記号	

項目	要因	のり面		自然斜面	
		評点区分	配点	評点区分	配点
地形	G1: 崖地形	G1に該当する	3	G2の内、崖地形該当	3
	G2: 崩壊地塊	G1に該当せず	0	G2の内、1層形該当	2
	G3: 台地の断崖、断崖浸食、急峻地形	G1に該当せず	0	G2の内、2層形該当	3
	G4: 尾根花押など凸型斜面、オーバハンガ	G1に該当せず	0	G1, G3の内、1層形該当	2
土質・地質	浮気に弱い土質	該当する	8	G1, G3の内、2層形該当	0
	水を含むと強度低下しやすい土質	該当する	4	G4に該当する	(6)
崩壊	浮気に強い軟弱	該当する	12	崖	2
	風化が速い硬質、その他	該当する	6	やや顕著	4
崩壊	濡れ盛(濡り面、溜線)	該当する	8	該当せず	0
	不透水性基盤上の土砂	該当する	6	顕著	8
表面の状況	上部が硬質/剛性が脆弱な岩	該当する	0	やや顕著	4
	その他	該当する	0	該当せず	0
表面の状況	表土及び浮石・軽石の状況	不安定	12	該当せず	0
	浮石・軽石が不安定→やや不安定	不安定	12	該当せず	0
表面の状況	湧水	湧水あり	8	該当する	(24)
	表面の崩壊状況	湧水あり/流出し程度	4	不安定	0
形状	勾配(α)、高さ	H>30m	18	不安定	0
		H≤30m, >30m	15	不安定	0
変状	当該のり面斜面の変状(即座小落石、ガリ浸食、落石、ハインツル、崩壊、はらみ出し、根曲り、倒木、電線/開口電線/その他別業工の変状)	崩壊	5	不安定	0
		崩壊	3	不安定	0
変状	隣接するのり面、斜面等の変状(落石・崩壊、電線/はらみ出し/その他の変状)	崩壊	5	不安定	0
		崩壊	3	不安定	0
合計		点 (A1)		点 (A2)	

【対策工】(B)=(A1)+αまたは(A1)×0	既設対策工の効果の程度	評点
想定される落石・崩壊を十分に予防している、もしくは、それが発生したとしても十分に防護し得る。	×0点	のり面
想定される落石・崩壊をかなり予防している、もしくは、それが発生した場合かなり防護しているが、万全ではない。	-20点	斜面
想定される落石・崩壊を一部予防している、もしくは、それが発生した場合一部を防護しているが、その他の部分に対しては効果が無い。	-10点	(B)のり面
対策がなされていない、もしくは、対策があるがあまり期待できない。	±0点	(B2)斜面
合計		点

【履歴】(C)	配点	評点
*最近の対策実施以降、落石・崩壊が当該のり面、斜面等で発生していない場合には、履歴からの評価は実施する必要なし。→(C)を0点とする。	100点	
最近の対策以降、道路交通への支障が生じたことあり(対策工の効果なし)	70点	(D)=MAX(B,C)
交通への支障はないが路面に運る比較的大きな落石・崩壊の履歴あり	40点	要因からの評点
対策工が万全ではない		(B)=MAX(B1,B2)
のり面・斜面などによる程度の外観的な落石・崩壊の履歴はあり(対策工の効果はあるが、追加対策工が必要と思われるもの)		(C)
総合評価		(D)=MAX(B,C)
対	判定	
対策が必要と判断される。		
防災カルテを作成し対応する。		
特に新たな対応を必要としない。		

【主要点検対象】	【主な災害形態】
のり面	落石
自然斜面	崩壊

※総合評価で示した判定からのり面部分、自然斜面のどちらにも該当する場合は、また、想定される主な災害形態が落石が崩壊かを示す。

注) ( )は各項目の満点を示す。  
 該当する場合は配点欄に○印をつけるのと共に点検を記入する。  
 不明な場合は中間的な値を採用する。

【地盤時の安定性】

安定	
不安定	

\*地形でG4または浮石・軽石が不安定な場合は、不安定欄に○印をつける。



施設管理番号	部分記号	点検者
		所属機関

様式一〇 安定度調査表(地すべり)

【履歴(A)】		着眼点		配点	評点
項目	地すべり履歴	過去5年間の災害、地すべりの記録や確かな伝承等	あり なし	100 0	(100)
項目	地すべり地	斜面の亀裂、隆起や陥没 斜面安定工の異常、変状 路面の隆起、亀裂等 小崩壊 (北條養生後対策が実施されたものは、「兆候なし」とする。)	顕著な兆候 軽微な兆候 兆候なし	100 75 0	(100)
合計 (但し、100点を限度とする)				(B)	点

【要因(A)】		配点	評点
項目	地すべり地すべり地	30 15	(30)
項目	地質	18 14 7 3 0	※ (30)
項目	地質	7 7 3 0 10 0	(18) (30) (7) (30) (10) (10)
合計 (最大66)		(A)	点

【履歴(B)】		配点	評点
項目	地すべり履歴	あり なし	100 0
項目	地すべり地	顕著な兆候 軽微な兆候 兆候なし	100 75 0
合計 (但し、100点を限度とする)		(B)	点

【要因(B)】		配点	評点
項目	要因からの評点	(A)	点
項目	履歴からの評点	(B)	点
項目	(A)と(B)の内、大きい方	(C)=MAX(A,B)	点

【対策工(D)】		配点	評点
項目	既設対策工の効果の程度	点數(α)	判定
項目	対策工が無い、効果が低い。	±0点	
項目	一定の効果。	-30点	
項目	高い。	×0	
合計		(D)	点

【総合評価】		判定
項目	対策が必要と判断される。	対応
項目	防災カルテを作成し対応する。	判定
項目	特に新たな対応を必要としない。	

※特に新たな対応を必要としない場合であっても、年1~2回の巡視等を行う必要がある。

注) ( )は各項目の満点を示す。  
\*ただし権数の着眼点が選択された場合は、高配点のものを採りし、点数を記入する。  
該当する箇所には権数の場合でも配点欄に○印をつける。





様式—13 安定度調査表(擁壁)

施設管理番号									
部分記号									

点検者	
所属機関	

【擁壁周辺条件要因】(A)

項目	要因	評点区分	配点	評点
地形	地すべり	地すべり地形ではない	0	(30)
		地すべり地形だが適切な対策を講じている	5	
		地すべり地形だが対策がない、あるいは不明	30	
基礎地盤	軟弱な地盤	軟弱な地盤ではない	0	(20)
		軟弱な地盤だが適切な対策を講じている	5	
	軟弱な地盤だが対策がない、あるいは不明	20		
	基礎底面	良好な地盤に着床している	0	(10)
		擁壁前面の基礎地盤の平弱が深い	5	
複雑地帯にある		10		
支持力	基礎地盤が30°以上傾斜している	平版載荷試験により支持力を確認している	0	(5)
		N値から支持力を推定している	2	
		支持力の確認を行っていない	5	
		付近に湧水は認められない	0	
地下水	付近に湧水がある	基礎地盤の地下水が底面付近にある	10	(10)
		周辺に有効な排水施設があり、雨水等が流入しない	0	
		周辺の排水施設が機能を発揮していない	20	
排水施設	排水施設が設置されておらず、雨水が自然流入する	前面に河川がない	0	(25)
		前面に河川がある	25	
立地	洗脚	洗脚防止工が無いが、基礎は常時水位より高い	5	(20)
		擁壁前面に有効な洗脚防止工が講じられている	5	
		洗脚防止工がない	10	
合計			(A)	点
但し50点を上限とする				

【履歴】(C)

項目	要因	評点区分	配点	評点
壁体の変状	変状なし	2年以上変状が進行していないことを確認 対策工実施後変状の進行なし(2年未満)	0	(50)
		未対策が変状の進行あり(2年未満)	10	
	変状の停止が確認されず(含む、資料無し)		50	
合計			(C)	点
但し50点を上限とする				

$(D) = (A) + (B) + (C)$

擁壁周辺条件要因 (A) による評点	点
擁壁本体要因 (B) による評点	点
履歴からの評点 (C)	点
合計評点 (D)	点

【総合評価】

対応	判定
対策が必要と判断される。	
防災カルテを作成し対応する。	
他に新たな対策を必要としない。	

注) ( ) は各項目の満点を示す。  
該当する場合は配点欄に○印をつけると共に点数を記入する。  
不明な場合は中間的な値を採用する。

【擁壁本体要因】(B)

項目	要因	評点区分	配点	評点
擁壁形式	石積 混合擁壁	安定した地山や切工のり面保護として用いている	5	(20)
		良好な裏込めが施されている	5	
		上記以外	10	
		空積	20	
無筋等	点検要領参照		5	(20)
			0	
片持梁式	点検要領参照			(B)
		合計	(B)	
合計				
但し20点を上限とする				

様式-14 安定度調査表(橋梁基礎の洗掘)

施設管理番号	部分記号	部分記号	部分記号	部分記号	部分記号
--------	------	------	------	------	------

**〔河床・護岸の安定性(橋台・橋脚共通事項) (A)〕**

項目	区分	配点	評点
河床の状況	1/100以上	15	
	1/100未満	10	
	1/200未満	0	
築造位置(水衝面または深掘れ部に橋台・橋脚がある)	該当する	20	
	該当しない	0	
築造年代	昭和20年以降	10	
	昭和11年~40年	5	
	昭和11年以前	0	
最小径間長	10m以下	15	
	10m超~20m以下	10	
	20m超	0	
河橋阻害率	7%以上	15	
	5%以上7%未満	5	
	5%未満	0	
桁下高	30cm以下	10	
	30cm超60cm以下	5	
	60cm超	0	
合計 (A) (100~0) 点			

**〔橋台調査橋台: 〕(D)〕**

項目	区分	配点	評点
護岸の基礎の洗掘や変状が認められるか小さい	洗掘・変状	50	
	変状なし	30	
護岸の変状	大きな変状が認められる	50	
	変状が認められるが小さい	30	
護岸の形状	落下や空堀などの変状が大きい	50	
	落下や空堀などの変状が小さい	30	
ケーソン基礎	洗掘・変状	10	
	変状なし	0	
基礎形状	不明	100	
	不明	80	
合計 (D)=a×b÷100 (100~24) 点			

**〔橋台に関する評点(G)〕**

河床・護岸の安定性 (F)	点
(A)+(B)max100	点
変状 (D)	点
(F)と(D)の大きい方 (G)	点

**〔橋脚に関する評点(H)〕**

河床・護岸の安定性 (H)	点
(A)+(C)max100	点
変状 (E)	点
(H)と(E)の大きい方 (I)	点

**〔橋台調査橋台: 〕(B)〕**

項目	区分	配点	評点
橋脚に関する評価	5m以内	10	
	5m超10m未満	5	
	10m超	0	
橋台が河川内に突出している	橋脚位置の川幅が1/3以下に突出している	15	
	該当しない	10	
	該当する	0	
洗掘に対する安定性(基礎の侵入)	洗掘が認められる	10	
	洗掘が認められない	0	
合計 (B) (25~20) 点			

**〔橋脚調査橋脚: 〕(E)〕**

項目	区分	配点	評点
洗掘	洗掘なし	20	
	洗掘あり	15	
基礎周辺河床の洗掘	河床・河川の洗掘	90	
	河床・河川の洗掘なし	100	
合計 (E) (100~15) 点			

**〔橋台に関する評点(K)〕**

(G)と(I)の大きい方 (K)	点
------------------	---

**〔総合評価〕**

対	成	判	定

様式-16 被災履歴記録表

施設管理番号	被災種別	発生位置	距離標(自)	東	緯	上,下,他	管理機関コード	管理機関名
H8年度防災点検箇所	該当,非該当							
断面図(被災,対策)								
断面図(被災,対策)								
特記事項								
発生年月日	平成	年	月	日				
規模	幅、長さ、深さ(m)	m、	m、	m				
誘因	降雨、連続	mm	最大	mm/hr	地震、震度	加速度	gal	
被害	人身、死者	人、	気傷者	人、	物損	被害額	百万円	
通行止継続	全面	時間、片側	時間、片側	時間、片側	時間、片側	時間、片側	時間、片側	
対策工	施工年度	対策工種	対策工種	対策工種	対策工種	対策工種	対策工種	百万円

スケッチ・現況写真

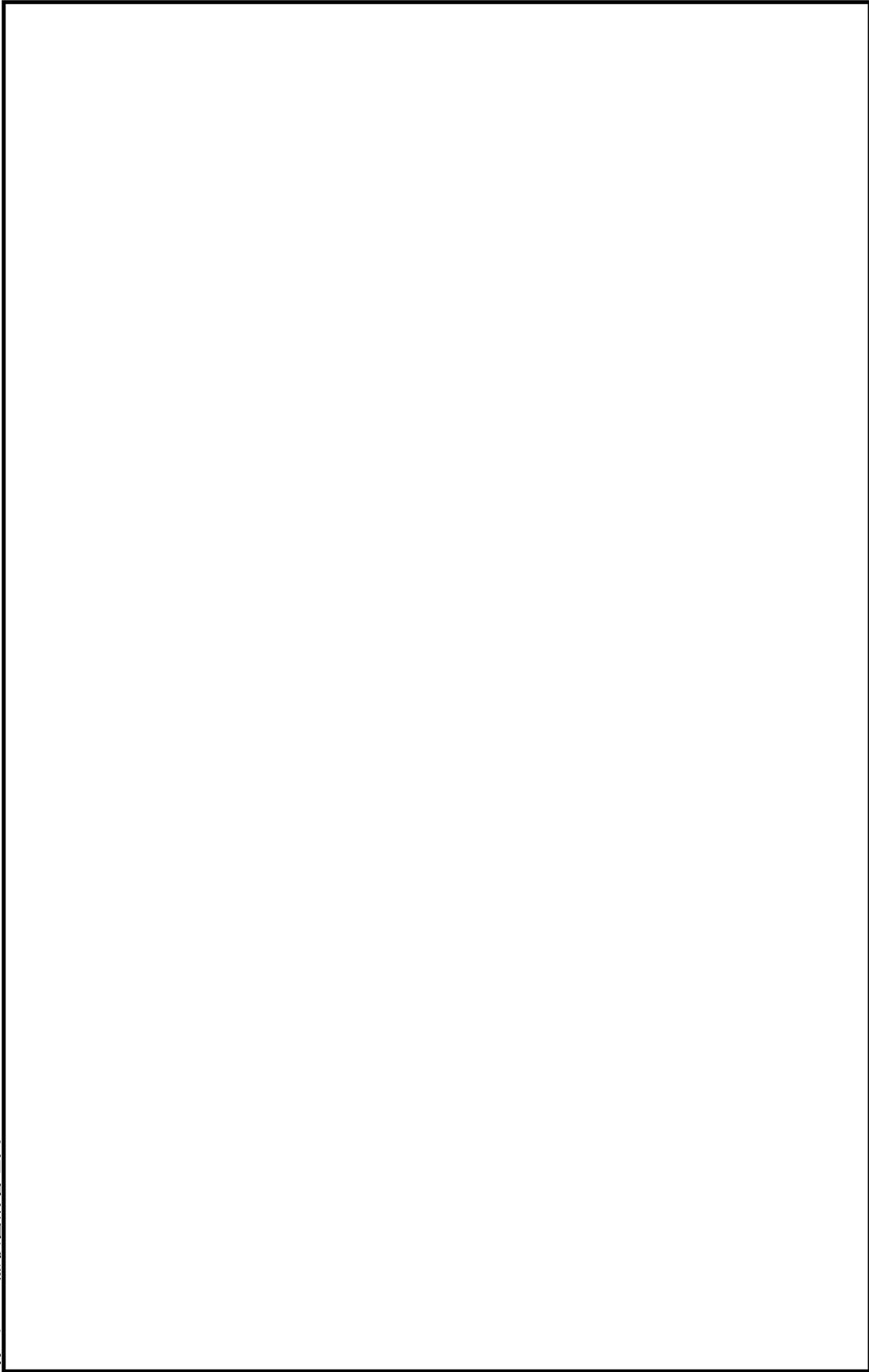
様式-17 被災履歴記録表(橋梁基礎の洗掘)

施設管理番号	災害種別	西側標・自	(至)	橋長	東 緯	管理機関名								
H18年度防災点検箇所	該当・非該当	架設年次	m	m	上下・他	管理機関コード								
橋梁名	橋梁名	河川名(河川管理者)	北 緯											
橋梁一般図(被災・対策)														
断面図(被災・対策)														
<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>橋脚基礎周辺</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>橋台および橋台周辺護岸</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>橋台背面盛土(右岸・左岸)</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>その他( )</td> </tr> </table>							①	橋脚基礎周辺	②	橋台および橋台周辺護岸	③	橋台背面盛土(右岸・左岸)	④	その他( )
①	橋脚基礎周辺													
②	橋台および橋台周辺護岸													
③	橋台背面盛土(右岸・左岸)													
④	その他( )													
現況写真・スケッチ(被災・対策)														
特記事項(H18年度点検以降)														
発生日	平成	年	月	日										
規模	1. 橋梁の流失 (上部構造( )・橋脚( )・橋台( )) 2. 橋梁の傾斜・沈下 (橋脚( )・橋台( )) 3. 背面盛土の沈下(右岸・左岸) 4. その他(コメント: )													
誘因	降雨: 連続 mm・最大 mm/hr (台風・豪雨・その他) 人身: 死者 人・負傷者 人 物損: 被害額: 千円 コメント:													
被害	通行止実績: 全面 時間・片側 時間・路肩規則・なし 施工年度: 千円 対策工種: 構築工費:													

様式-18 現状記録写真

施設管理番号		道路種別		点検対象項目		路線名		距離標(自)		北緯		度		分		秒		測地系		延長	
事業区分		現道・旧道路区分		所在地		町		位置目印		北緯		度		分		秒		測地系		延長	
管理機関コード		距離標(自)		町		位置目印		北緯		度		分		秒		測地系		延長		測地系	
管理機関名		距離標(自)		町		位置目印		北緯		度		分		秒		測地系		延長		測地系	
管理機関名		距離標(自)		町		位置目印		北緯		度		分		秒		測地系		延長		測地系	

様式-19 点検箇所管理図



対策区分:「1」(要対策) 「2」(経過観察) 「3」(対策不要1) 「4」(対策不要2)  
1/2500の平面図に点検延長を旗揚げし、施設管理番号、対策区分を記載する。

土質調査年度  
測量調査年度  
予備設計年度  
詳細設計年度

様式-20 経過観察表 I

点検ルート  
点検番号  
対策予定年度  
現状区分

施設管理番号	点検対象項目	路線名
変状No.	<p>(詳細スケッチ欄)</p>	<p>(写真貼付欄)</p>
<p>着目すべき点</p>		
<p>チェック項目</p>		

様式-21 経過観察表Ⅱ

現況区分:

施設管理番号	点検月日	点検対象項目	路線名	距離(自)	(至)	延長	m
①							
②		前回との差異					
③		前回との差異					
④		前回との差異					
⑤		前回との差異					
⑥		前回との差異					
⑦		前回との差異					
⑧		前回との差異					
⑨		前回との差異					
⑩		前回との差異					
		前回との差異の総括					
		天候:					
		点検時の特記事項 (点検時の対応)					
		点検者名					
		点検後の対応 (専門技術者の判定)					
点検日	専門技術者名						

様式-22 調査平面図

	施設管理番号
	点検項目

様式23 点検表記録その1 (道路土工構造物点検)

点検箇所・所在地・管理者名簿

管理番号	点検対象構造物	路線名	所在地	起点側	緯度
				起点側	経度
				延長	
	管理者名	点検実施年月日	代替路の有無	緊急輸送道路	バス路線
			有・無	一次・二次	該当・非該当
	事前通行規制区間	交通量	D I D 区間	占用物件等 (名称)	
有・無	規制基準	台/12h	該当・非該当		
	連続雨量 mm		有 ( 年 月 ) ・無		
現況スケッチ (点検範囲の各施設の位置関係がわかるもの) 位置図					
関連情報： 道路防災点検カルテ：					

様式24 点検表記録その2 (道路土工構造物点検)

構成施設の点検

点検時に記録		措置後に記録				
構成施設名	変状の種類	長大切土や高盛土への影響	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	措置の内容	措置後の長大切土や高盛土への影響	措置実施年月日
のり面						
吹付モルタル・のり枠						
擁壁・補強土壁						
排水施設						
その他施設						

長大切土や高盛土の健全性の判断 (判定区分 I ~ IV)

点検時に記録		措置後に記録	
判定区分	所見等	再判定区分	再判定実施年月日
II 経過観察段階			

全景写真 (起点側、終点側を記載すること)

建設年次	<div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <span>(起点側)</span> <span>(終点側)</span> </div>
延長 (m)	
最大のり高 (m)	

様式25 点検表記録その3 (道路土工構造物点検)

状況の写真 (変状の状況)

切土のり面・盛土のり面 (変状 : )	吹付・のり枠 (変状 : )
擁壁・補強土壁 (変状 : )	排水施設 (変状 : )

※変状の発生している構成施設ごとに状況を記載